

# Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現させた人達の実話エピソードをお届けします。  
第1回は憧れのドレスを着てハワイの森を訪れた渡辺さんの物語です。

Text : Masumi Nakajima Photo : Yuzu

Vol. 1

## 「運命の出会い」

運命の人——。初めてユウくんに出会った時、なぜかそう思った。優しい声で語る言葉の端々に、彼のおおらかな豊かな心が表れていた。  
「大丈夫。すべて上手くいくよ。」  
ユウくんはいつものようにそつ言う。彼の口癖で、私も大好きな言葉。  
付き合い始めて1年が経つ頃、彼は会社を辞め、起業することにした。「1年で仕事を軌道に乗せるから結婚しよう。これからもめぐみの成長していく姿を見守っていきたい」  
レストランで突然のプロポーズ。普段はサプライズなんて苦手な彼が、その日は花束とケーキを準備して、私を驚かせた。

「はい、もちろんです」  
婚約指輪には「Everything goes well」と刻んだ。  
\*

ウエディングドレスは、世界中の女の子にとって永遠に憧れのものだろう。まして洋服のデザインを仕事にしていた私にとって、ドレスは絶対に妥協したくないものだった。それに、こだわりの強い性格は子どもの頃から。たくさんさんのドレスを見たが、自分にぴったりと思えるドレスになかなか巡り会えない。  
ある日、大好きなヴィヴィアン・ウエストウッドのウェブサイトを見ていて、あるドレスに目がとまった。

オフホワイトでバルーンタイプのドレス。学校の卒業作品で作ったドレスも、こういうデザインだったんだ。「これだ！これしかない!!」  
嬉しくなって問い合わせたが、ロンドンの本店でしか取り扱っていないという。すぐにロンドンに行くことに決めた。父からは反対されたが、どうしてもこのドレスを自分の目で見て確かめたくかった。それを母が後押ししてくれた。女同士の絆はこう



を決めた。まずはハワイ挙式専門店のファースト・ウエディングに相談することにした。人と違うことをしたがる私たちのウエディング・テーマは「森とロールスロイス」。担当のSさんは私たちが求めていることを丁寧に一つひとつ聞いてくれ、ヌアヌバレーでの撮影を薦めてくれた。「めぐみさんのドレスが一番映えそうな清々しい緑ですよ」。クイーン・エマも愛した渓谷で、深い緑が神

いう時、強い。母とロンドンに向かい、出会ったそのドレスは、まさに私の理想の「運命のドレス」だった。  
\*

結婚式の場所は彼の両親の新婚旅行先だったハワイに決めた。「すべてを受け入れてくれるような、やさしい空気が最高のなよ」と彼の母が言っていたし、ハワイのフルムーン旅行をプレゼントできるなんて幸せ。ドレスを中心に、結婚式のすべて

秘的で美しいという。写真には大きなバニヤンツリー。この木の下で手をつなぐ私たちの姿が目につくか、一目で気に入った。  
チャペルは海が見えるパラダイス・コーヴ・クリスタル。その場所はハワイの神が地上に降りた最初の地として神聖なエリアだぞうだ。  
ブーケのリボンはドレスに合うものを徹底的に探した。フラワリーシャワーは赤一色。私たちがらしく、イメ

ージ通りに細部にもこだわりたい。「式に来てくれる人たちが心の底から楽しませましょう」と彼女はいつも笑顔で迎えてくれて、こだわりの強い二人にとことん付き合ってくれた。そしてすべてを形にしてくれた。これがおうひとつの「運命の出会い」だった。

光り輝く海とハワイの開放的な雰囲気の中で、最高に幸せな一日。楽園の自然に囲まれたチャペルで永遠を誓った。家族も驚くようなこだわりの挙式の後にはフォトツアーへ。ふと出会うノスタルジックな建物や人々との出会いもすべてが美しかった。ヌアヌバレーでの写真は人生で一番のお気に入りの写真だ。  
夜は波の音を聴きながら、家族みんなでゆつくりと過ごした。誰の心をも開かせてしまおう。ハワイ・マジックが私たち家族の絆を深めてくれた。彼の両親が私の手をとって「ありがとう」と何度も言ってくれた表情は忘れられない。

結婚式から1年半。家族が集まると、今もハワイの話になり、アルバムをめくってみる。ウエディングアルバムの写真も一枚一枚自分で選び、レイアウトも希望通りに仕上げてもらった。真つ赤なアルバムの表紙には「Everything goes well」の文字。何十年も経ったら、私たちはこのアルバムをどんな気持ちで眺めるんだろう。いつまでも信じ合っていて、感謝の気持ちを忘れない夫婦でいられますように。